

本部広報 2011-074

2011年12月27日

警戒区域に残された車両、557台の持ち出しを完了 ～地元事業者によるサポート活動をJAFが支援～

JAF（一般社団法人日本自動車連盟、会長 田中節夫）は、政府の要請を受け、12月7日から12月24日の間、のべ14日間にわたり、地元事業者と共に東京電力福島第一原子力発電所の事故による警戒区域内において、避難住民が残した車両持ち出しをサポートする活動を行いました。

今回、サポートにあたったのはJAF福島支部管内（福島県内全域）のJAF指定工場を中心とした10社で、「バッテリー上がり」、「燃料の補給」、「タイヤのエア充填」に限定して作業が行われました。長期間放置されたことにより動かなくなった車両など、エンジン始動や走行サポートを必要とした車両を含め、557台の車両を警戒区域内から持ち出すことができました。これらの車両はスクリーニングにより安全が確認されています。

JAFは、これまでのJAFロードサービス特別支援隊の経験とノウハウを活かして、スタッフを現地に派遣し、作業チームの招集、取りまとめ、救援資材の調達、現場活動の連絡調整を行い、地元事業者の車持ち出しサポート活動を支援しました。JAFはこれからも東日本大震災被災地における自動車ユーザーの安全と安心のため、出来るかぎりの支援をしていきます。

■車持ち出し支援結果

期 間	持ち出し車両
第一期 (12/7～12/11)	314
第二期 (12/14～12/18)	181
第三期 (12/21～12/24)	62
合 計	557



このニュースリリースへのお問い合わせは、

JAF広報部 電話03-3578-4920 へ お願いします。